

# 業績のご報告(単体)

平成28年9月期の業績につきましては、預金・貸出金ともに順調に増加しました。特に貸出金残高につきましては、当行が持つコンサルティング機能を発揮し、地域のお客さまの資金ニーズに積極的に応えてまいりました結果、中小企業向け、個人向け貸出ともに増加しております。



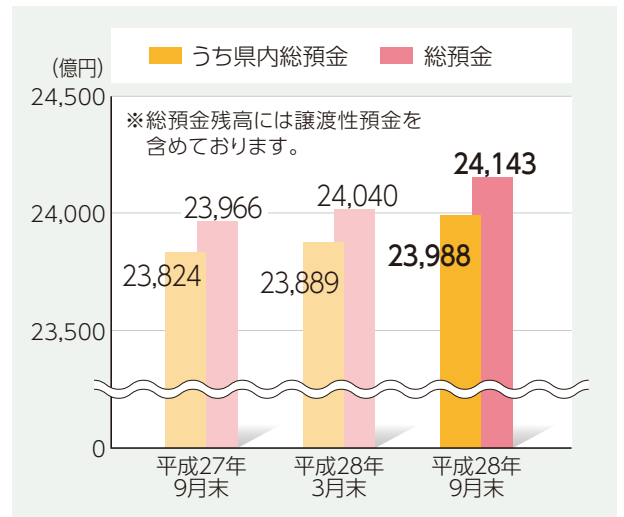
平成28年4月、  
コンサルティング考勤プロジェクト2019

**START**

(注)当行は主要な営業地域を千葉県内としておりますので、千葉県内の営業店舗の合計計数を「県内」計数として表示しております。

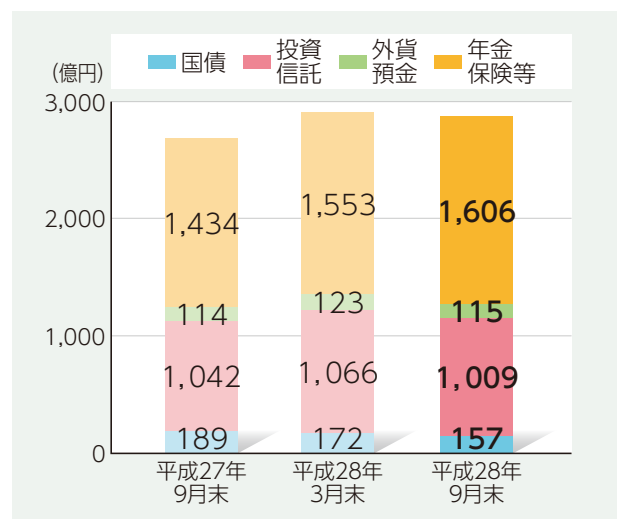
## 総預金残高

総預金残高は、個人預金の増加などから前年同期比176億円増加し、2兆4,143億円となりました。



## 預り資産

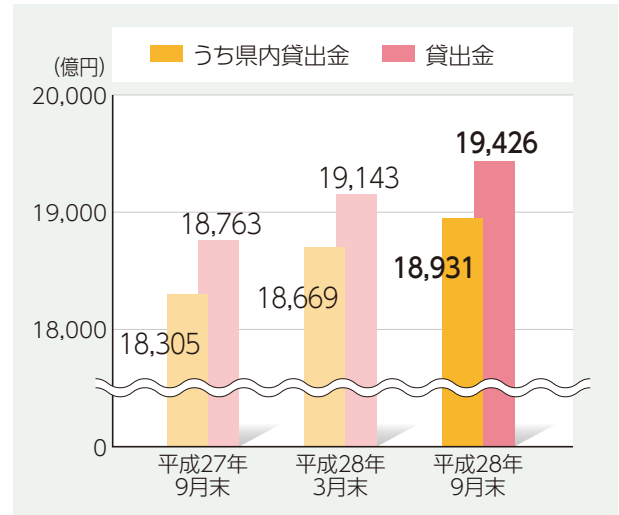
マーケット環境が不安定であったことから資産運用商品は、一般的に伸び悩みましたが、年金保険等は前年同期比171億円増加の1,606億円となりました。



グラフ等に記載の計数および解説文中の計数は単位未満切捨て表示となっております。

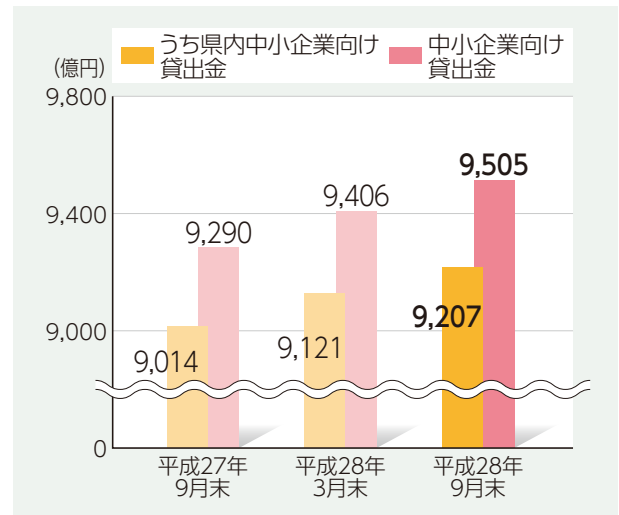
## 貸出金残高

貸出金残高は、前年同期比662億円と大幅に増加し、1兆9,426億円となりました。そのほとんどを県内の企業や個人のお客さまへの貸出しに向けております。



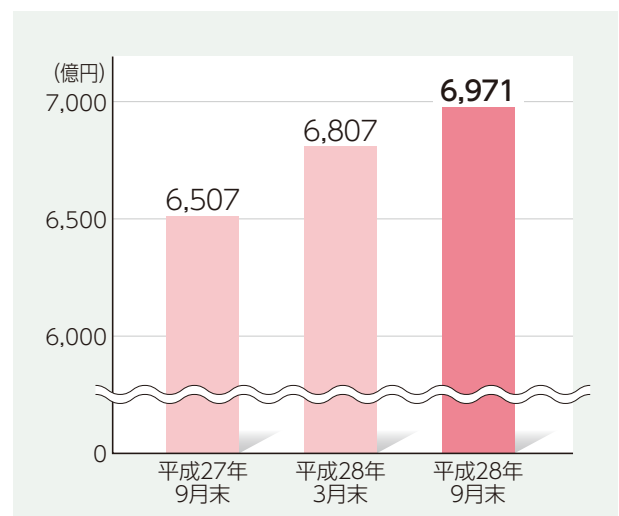
## 中小企業向け貸出金残高

中小企業向け貸出金残高は、前年同期比215億円増加し、9,505億円となりました。



## 住宅ローン残高

住宅ローン残高は、住宅販売会社との連携強化等により、前年同期比464億円増加し、6,971億円となりました。



## コア業務純益・経常利益

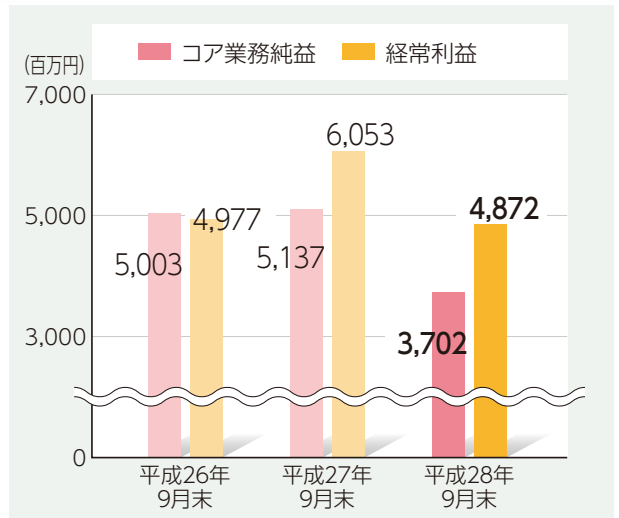
貸出金残高は順調に増加したものの、利回りが低下したため、資金利益は減少しました。

これにより、コア業務純益は、前年同期比14億34百万円減少し、37億2百万円となりました。

また、経常利益は、前年同期比11億81百万円減少し、48億72百万円となりました。

コア業務純益

$$\text{コア業務純益} = \text{一般貸倒引当金繰入前の業務純益} - \text{国債等債券関係損益}$$



## 実質業務純益・中間純利益・ROE (株主資本利益率)

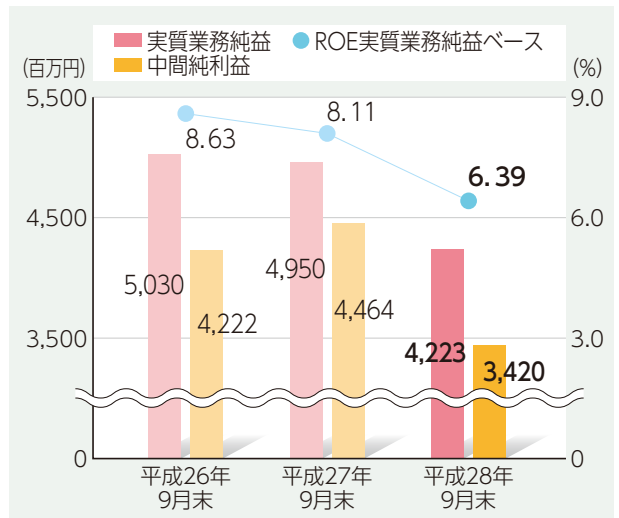
実質業務純益(一般貸倒引当金繰入前の業務純益)は、前年同期比7億27百万円減少し、42億23百万円となりました。

中間純利益は、前年同期比10億43百万円減少の34億20百万円となりました。

その結果、ROE(株主資本利益率)は、実質業務純益ベースで前年同期比1.72ポイントの減少となりました。

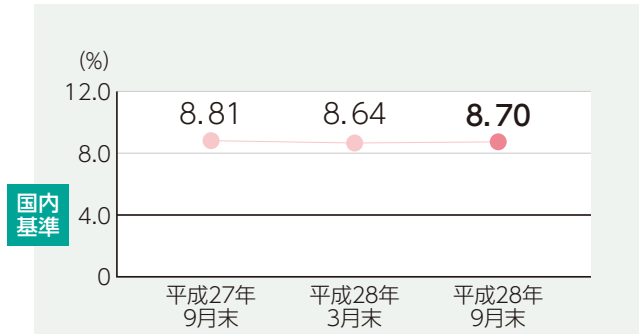
ROE(株主資本利益率):実質業務純益ベース

ROE(株主資本利益率)=実質業務純益÷純資産の部合計平残×100  
値が大きいほど株式資本の「収益性」が高いことを示しています。



## 自己資本比率(バーゼルⅢ)

自己資本比率は、平成28年3月末比0.06ポイント上昇し、8.70%となりました。



## 開示債権比率(金融再生法基準)

お取引先企業と強固なリレーションを構築し、課題解決への支援に取組んだ結果、金融再生法基準の開示債権比率は、平成28年3月末比0.05ポイント減少の1.64%、正常債権を除いた「開示債権」の残高は、平成28年3月末比6億円減少の326億円となりました。

